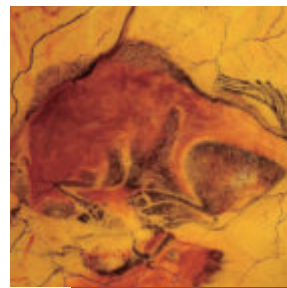
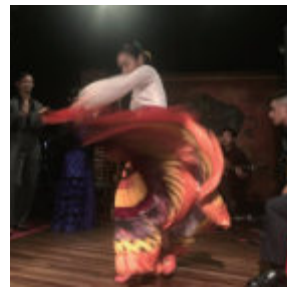




Sociedad Española de Okinawa



Vol.3

沖縄スペイン協会 会報第3号

沖縄スペイン協会はスペインを愛する人、スペインに興味を持ってる人が集まり、
スペインを良く知り親睦を育みながら、スペインの魅力を一緒に楽しもうという団体です。
スペイン人会員やスペインに住む仲間もいて、本国との交流もめざしています。
お問い合わせなどはこちら okinawaspain@gmail.com まで

EFA 認定フラメンコ・スクールの開講について

フラメンコダンサーのカルロスさんが教えていらっしゃるカルロス・ゴメズ・フラメンコダンススクールが、本年4月にスペインのアンダルシア州を拠点とし世界に展開するスペイン国認定のフラメンコ舞踊養成学校『Escuela de Flamenco de Andalucía』(通称 EFA)より日本で初めての認定校に推薦され、先日9月21日にEFA学長のルイス・ギジェルモ・コルテス氏をお迎えして開講式を行いました。

式典は会員の島袋紀子さんの司会で行われ、沖縄スペイン協会からは会長として私、上原と、副会長服部洋一さん、そして会員のギジェルモ・アラムビューロさんが参加しました。式典ではコルテス氏や服部さんからの祝辞、スクールのロゴの披露、そして宜野湾市役所の方にお手伝いいただき、生徒さんへ学生証の授与が行われました。そして生徒さんたちによる踊りやカルロスさんご自身とEFAの渉外担当のラウラ・セゴビアさんによる、踊りセビジャーナスが披露され、会場はスペインの雰囲気がいっぱいになりました。

EFA アンダルシアフラメンコスクールは国際的なフラメンコのプロフェッショナル育成を目的としており、スペイン国労働社会保障省の職業訓練プログラムとして認定を受けた学習カリキュラムでレッスンを進めているということですので、そのしっかりした教育システムによって、ここから沢山のダンサーたちが世界に羽ばたいていくことでしょう。

カルロスさんは『パレーフラメンコデマリッド舞踊団』にてイタリア・フランス・ポルトガル・ギリシャとヨーロッパを中心での公演に出演し、『EXIT PALACE』にてステージ構成振付に携わりフラメンコダンサーとして中国・マレーシアでの公演にて活躍しています。2006年にマドリッドでの志摩市志摩スペイン村マドリッドオーデションにて100人を超える応募者の中から第一舞踊手として抜擢され来日し、園内のショーやホテル志摩スペイン村でのフラメンコステージ構成振付指導を8年間手がけ、その後2016年に沖縄県宜野湾市にいらっしゃいました。自らフラメンコダンサーとして日本国内外で活躍されているアーティストや自身の生徒さんと共にスペイン伝統舞踊を発信活動していらっしゃいます。カルロスさんのこれからの活躍に大いに期待したいと思います。

上原由記音



【沖縄スペイン協会の歩み】

2017年度

- 1月22日 Me gusita España スペインじょ〜と〜第1回アルテ赤田ホール (白石重文、大城和美)
- 3月19日 参加型フラメンコライブ アンダルシア (西井憲司、美希)
- 4月23日 スペインの歌とギターの夕べ アルテ赤田ホール (服部洋一、佐野周作)
- 5月14日 スペインを楽しむ必勝法、私とスペイン アンダルシア (當間茂樹、上原由記音)
- 6月25日 ギターとピアノによるスペイン音楽のひと時 アルテ赤田ホール (ピリングスリー・ノエル、上原由記音)
- 7月23日 スペイン料理教室 ラス・トレス・ラマス (内山三枝)
- 8月8日 スペイン料理で懇親会 ラス・トレス・ラマス
- 10月20日 デオリ文化科学担当参事官歓迎パーティー 沖縄県立博物館 (アルベルト酒井、小波津美奈子)
- 12月3日 スペインのクリスマス歌う アルテ赤田ホール (服部洋一、上原由記音)
- 12月3日 会報第1号出版

2018年度

- 2月4日 ピアノによるスペインのひととき 琉球大学音楽棟 (上原由記音、松本彩里早、隈元ひかり、永山ひなの、玉城芳野)
- 4月22日 スペイン料理でLunch、パエジャ ラス トレスラマス (内山三枝)
- 6月24日 ギターの調べ アンダルシア (ノエル・ピリングスリー)
- 8月19日 栄光の覇者 スペインとイギリスの音楽 スタジオドリームアート (服部洋一、宮城理恵子)
- 10月7日 歌とピアノのひととき 琉球大学音楽棟 (大城英明 c 小波津美奈子、上原由記音)
- 12月2日 スペインのクリスマスソングと音楽 琉球大学音楽棟 (大城和美、崎山弥生、香村桃代、武田光史)
- 12月2日 会報第2号出版

2019年度

- 2月24日 情熱のピアノ 琉球大学音楽棟 (上原由記音、井口佳奈、金城志歩)
- 4月21日 セビジャーナスを踊ろう 琉球大学音楽棟 (大城和美)
- 6月16日 スペイン料理の会 ラス・トレス・ラマス (内山三枝)
- 7月27日 魅惑のギターとピアノ・デュオ 音の幸うるく (ノエル・ピリングスリー 大城英明 上原由記音)
- 10月27日 彷徨えるユダヤの民〜憂愁の歌〜 沖縄大学 (服部洋一、宮城理恵子)
- 12月1日 サンティアゴ巡礼のお話とスペイン音楽 琉球大学音楽棟 (エインリヒ・サンチェス、カルロス・ゴメス、ノエル・ピリングスリー、大城英明、崎山弥生、上原由記音)
- 12月1日 会報第3号出版





【スペイン・ナショナルデー】

10月12日はスペインのナショナルデー（フィエスタ・ナシオナル・デ・エスパーニャ）です。この祝日には、スペイン国王、政府首相、国家代表者が参列して、陸軍、海軍、空軍によるパフォーマンスが行われます。キリスト教徒によるレコンキスタ（イスラムからの国土回復運動）の成功した1492年、地球球体説の実現に期が熟し、コロンブスは両カトリック王に援助を求め航海にでました。そしてアメリカ大陸に到達したのでした。

400年後1892年に10月12日は大陸発見記念日となり、1987年スペインの祝日に制定されました。

東京では、10月12日に先立って今年は11日にナショナルデーのお祝いが開かれました。会長として、私はお祝いに参加し、ホルヘ・トレド大使閣下とホセ・アントニオ・デ・オリ文化担当参事官にご挨拶をいたしました。会場には参議院議長山東昭子先生、若林健太外務次官、山口那津男公明党代表もご臨席で、11月にオープンするスペイン料理専門店「ホセルイス」からのタパスが振舞われました。



皆さま、こんにちは。私は沖繩スペイン協会を設立し、会長を務めさせて頂きました上原由記音でございます。来年3月に勤務先の琉球大学を退職し、当協会の会長を退任することになります。その前に、今年はスペイン人カトリック司祭フランシスコ・ザビエルの来日四七〇年の記念年ですので、改めてスペイン人の初来日について書いてみます。

話は、中世の時代にさかのぼります。スペインの国は長い間イスラムに支配されてきました。彼らに対してキリスト教徒たちは国土回復運動（レコンキスタ）を行い、十五世紀後半、イスラムの最後の王国ナスル朝を滅亡させ、スペインは大航海時代を迎えます。

古代ギリシャの時代から地球球体説は考えられていましたが、それを航海によって実証はされておらず、十五世紀に、帆船や羅針盤の進歩によって遠方への航海が可能になり、加えてスペインの国が大きな力を持ったことで、先頭を切ってコロンブスが新大陸に到達しました。

地球は丸いと証明すべく、また新しい貿易の地を求めて、多くの冒険家が海へ出ていきました。そして、日本には一五四一年に豊後国（大分県大分市）、一五四三年に種子島にスペインの隣国ポルトガルの商人が初めてやってきました。

そして、一五四九年にスペイン人フランシスコ・ザビエルが薩摩半島の坊津にやってきました。

ザビエルはスペインの北部の山岳地方ナバラのパンプローナ近郊で生まれたバスク人で、イグナチオ・デ・ロヨラ等と共にキリスト教イエズス会を創設したメンバーです。

ザビエルは、宣教師二名、従僕二名マラッカで出会ったヤジロウを含む三人の日本人と共に、錦江湾から上陸しました。ザビエルはその時の日本人の印象を次のように語っています。

「この国民は、私が遭遇した国民の中では、一番傑出している。略々日本人は総体的に、良い素質を有し、悪意がなく、交わってすぐぶる感じが良い。彼らの名譽心は、特別に強烈で、彼らにとっては名譽がすべてである。日本人は、たいがい貧乏である。しかし、武士たると平民たるとを問わず、貧乏を恥辱だと思つてゐるものは、一人もない」（横田二郎著「キリシタンと西洋音楽」朔北社より）

そして、薩摩で守護大名の島津貴久に謁見し、宣教師の許可を得て、日本で初めてキリスト教の布教を始めました。その後、府内（豊後国）には教芸、孤児院、病院、学校が次々につくられ、オルガンの伴奏で賛美歌が合唱されました。日本での西

洋音楽は、まさにザビエルによって教育されたといつても過言ではありません。

その後、ヴァリニャーノ司祭の発案で、一五八二年に九州のキリシタン大名、大友宗麟、大村純忠、有馬晴信の名代として、四名の少年による天正遣欧少年使節がヨーロッパに送られました。目的は、カトリックの布教活動のために、ローマ教皇とスペインとポルトガルの国王に会うこと、そして見聞を広めてくることでした。

日本とスペインの繋がりに

会長／上原由記音

少年使節は、最初ポルトガルのリスボンに到着し、その後、一五八四年にスペインのマドリッドで国王フェリペ二世に謁見いたしました。和服で現れた少年たちを、「国王子の宣誓式」のあとに彼らに向かい入れ、彼らを国王は抱擁し、歓迎したそうです。

ヨーロッパ滞在中に彼らは、西洋の楽器演奏を習う事もでき、一五九〇年に帰国し、翌年には、豊臣秀吉の前にジョスカン・デ・プレという作曲家の「千々の悲しみ」という作品を聚楽第において演

奏したと言われています。

しかし、秀吉は既に一五八七年に「バレンシア追放令」を出し、年々キリシタンの弾圧を強めていだったので、彼らは追放や殉教となつてしまい、その後、日本は鎖国しました。

その後、国交が回復したのは今から一五一年前、一八六八年に日本とスペインは修好通商航海条約をむすびました。

私は縁あってスペインのピアノ作品を研究しており、一九八〇年にファン・カ

ルロス一世と、二〇一八年にはフェリペ六世国王に謁見に浴し、またこのスペイン協会もスペイン全権大使から公認をうけていることを、皆さんにお伝えしたいと思います。

古い時代から繋がりのあったスペインの人々と、親しく交流していけるのは素晴らしいことです。

これからも沖繩スペイン協会を宜しくお願いいたします。

スペインの庭園より

大城英明



1b: José Camero 氏の絵画より、Generalife. Alhambra. Granada. Spain.

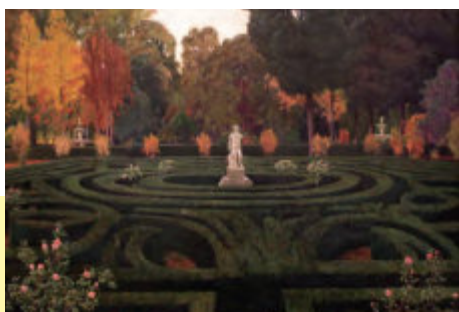
庭園とは、見て、歩いて楽しむために、樹木を植えたり、噴水・花壇を作ったりして人の手が増えられている。しかしながら、それらは自然を模した川や池などが作られ、木や草が植えられ、人工のものであるにも関わらず、自然と表裏一体をなしていると思う。また庭園には、国独自の世界観や宗教観が反映されるため、その景観や印象は国々で著しく異なり、その独自性が際立つ。日本庭園を調べてみるだけでも、事細かな思想や、庭

園を形作るために必要な多くの装飾の類やオブジェがあり、それらの専門用語を讀むだけでも、その一つ一つに国の歴史と文化や宗派さえも反映されていることに気づく。また、沖繩にも庭園とされる施設がいくつか存在するが、特に世界遺産にもなっている琉球王家最大の別邸「識名園」は、王家の保養地として、また外国からの使者の接待にも利用されてきた歴史がある。

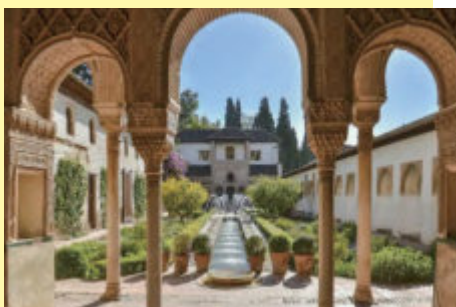


2: スペインのカラフルなタイル

ところで、本題のスペイン庭園についてであるが、スペインには世界的に見ても特筆する素晴らしい庭園が数多く存在している。今日はその数ある中から、アンダルシア地方のグラナダにそびえるアルハンブラ宮殿より、その敷地内の離宮に構える「ヘネラリーフェ庭園」について書いてみたいと思う。スペインの庭



上) 3a: サンティアゴ・ルシニョールの絵画より Aranjuez Garden
下) 3b: サンティアゴ・ルシニョールの絵画より Gardens of Monforte



1a: アルハンブラ宮殿の離宮よりのヘネラリーフェ庭園

の作品を1曲紹介したいと思う。ピアノと管弦楽のための交響的印象「スペインの庭の夜」(1909-15) 第1楽章「ヘネラリーフェにて」 第2楽章「はるかな踊り」

第3楽章「コルドバの山の庭にて」。

この作品は主にスペインの庭園を題材に、夜の神秘的で魔術的な印象を、フアリヤが音に描きだしている。この作品は上記の3つの楽章からなっており、特に第1楽章と、第3楽章が「庭」について描かれている。話は逸れるが、作品タイ

トルの「庭」という訳から、一般家庭にある小さな「庭」をどうしても想像してしまう。この音楽から受けるイメージとの違和感が大きいことから、「庭園」と意識くらいされてもいいように思う。それはさておき、この作品で聴かれる彼が国民楽派に根差したスペインの民族的、

そして歴史の変遷(イスラムの影響)を反映したサウンドは異国情緒の独特な印象を刺激し楽しませてくれる。

この度、スペインの庭園について書いてみたが、スペイン作曲家が描き出した音楽を合わせ、視覚的、聴覚的に融合して楽しんでみて欲しいと思いついて紹介させて

いただきました。

最後に、スペイン庭園をシリーズ的に描いてきた一人のスペイン人画家、サンティアゴ・ルシニョール(1861-1931)の作品を紹介して終えたいと思う(右頁3a、3b)。

セファルデーの歌

服部洋一

スペインの歌の魅力の中から、今回は、2019年10月度例会コンサートでも取り上げた「セファルデーの歌」に焦点を当ててみよう。

セファルデーとは、イベリア半島から追放された、あるいは迫害を逃れて自ら亡命し、南ヨーロッパやアフリカ北海岸沿いの地域、イスラエルへと移動在住したユダヤ人たちのことをいう。読者はアシケナデウム(アシケナージ)という名前も聞き覚えがあることと思われるが、ヘブライ語でドイツを示す言葉から生まれたアシケナデウムは、南欧系中近東系のセファルデームとは区別され、北ヨーロッパやドイツ系の白系ユダヤ人のことを指すものである。15世紀ス

ペインにおいてカトリック両王により進められた国土回復運動は、7世紀以上にわたるモーロ人支配からスペインの国土をキリスト教徒の手に奪還したのだったが、それと同時にカトリック両王は、キリスト教徒以外の異教徒、特にユダヤ教徒に対しキリスト教に改宗するか、それを拒めば死、もしくはイベリア半島からの追放を選ぶべしという追放勅令に署名したのであった(1492年3月31日)。だが、スペインにおけるユダヤ人に対する迫害の歴史は、はるか7世紀にまで遡る、とセファラード研究家のリリアーナT・アルカライは言及している。7世紀の時点で、スペインにおける「キリスト教徒の狂信は、不寛容と暴力の頂

点に達して」おり、そのあまりの凄まじさのために「幾千人ものユダヤ人はモロッコに避難所を求め」るほどであった。一方これに続く10、12世紀の、つまりアラブ人支配下のスペインでは、ユダヤ人は社会的にも、それ以前のような理不尽な扱いを受けることがなく、「職人、商人、医者になる者もあれば、キリスト教徒の君主の大臣にさえなる者もいた」とアルカライは記している。その後アフリカから進入した野卑なアラブ集団からの迫害の手を逃れ、再度ユダヤ人たちはアンダルシアの地を捨て、アラゴン、カステイリヤ、ナバールのキリスト教国へと移住を余儀なくされる。まさにユダヤ人は彷徨える民となり、特に国土回復運動終了後は、以前にも増して、イベリアの地からアフリカ北海岸に逃れる者が急増し、ある者たちは東方の聖地エルサレムを求めて旅を続け、ある者たちはアフリカ北岸の様々な地域に寄留し、その一方で、「隠れユダヤ」ともいえる新キ

リスト教徒(Conversos)としてスペイン国内に残留した者たちもいたのである。いずれにせよ、彼らはこういった逃避行と異郷の地での新生活を営まざるをえない状況の中で、喜びにつけ悲しみにつけ口ずさみ、少なくとも600年以上もの間、歌い継いできたものがセファルデーの歌として遺されてきたのである。これら古の歌は20世紀のスペインの作曲家の心を捉え、またその創作のインスピレーションの源泉ともなった。例えば、バスク出身のパードレ・ドノステア(1886-1956)は「4つのセファルデーの歌を、トルコ人の妻を持つ」ロドリゴゴ(1901-1999)もまた「4つのセファルデーの歌」を編み、ホアキン・ニンIIクルメリユ(1908-2004)は「6つのセファルデーの歌」を、マヌエル・ガルシアモランテ(1937-)に至っては、セファルデーの歌に基づく数多くの編曲作品を残している。

Flamenco en Vivo



言葉に言い表しようのない瞬間が生まれ
たりするのがフラメンコライブの魅力
だったりする。その「何か」に惹かれて
しまった私のような人がどんどんフラメ
ンコにハマってしまうのだろう。

ライブは7月26日、沖縄市の老舗ギ
ターラウンジ・アルハンブラで行われた。
今回は私以外のバイレ（踊り）を東京と
名古屋から、カンテ（歌）は台湾から来
てくれた。それぞれにセビリアで出会い、
フラメンコを通して知り合った仲間だ。

し、イメージを膨らませてリハーサルに
挑む。

私は帰国後の初ライブともあって、自
分自身の成長を披露する機会、みんなの
期待が大きいだらうと勝手にプレッ
シャーを感じていたが、ある時点で何か
が吹っ切れて気が楽になっていった。そ
れはフラメンコを始めてからずっと感じ
ていたものも含め、「自分は自分でしか
ない、無いものを追い求めてもしようが
ない」というどこか開き直りのような気
持ちだった。

共演するメンバーは自分よりひと回り
もふた回りも若い、キャリアを積んで
きた人たちだ。技術的にも体力的にも劣
るし、そんな中で何ができるか？と考
え、そんな中での答えは「とにかく楽しむ！」
ということだった。

遠い国スペインで育まれたフラメンコ
を通して出会い、またそのフラメンコを
通して沖縄で集まっている。セビリアの
街並みとセットで記憶に刻まれている顔
ぶれが馴染みの沖縄のライブハウスにい
る。なんとも言えない不思議な感覚であ
り、人の出会いの奇跡を体験している、
それだけで十分だった。

実際に気の知れたメンバー同士で、私
以外は年齢も近い。リハーサルから本番
までお互いを盛り上げよう、支えようと
いう気持ちがそれぞれにあった。自分の
踊りは緊張の連続だったが、バックでメ
ンバーの踊りをサポートしている時間が
とても楽しかった。本番でもお互いを楽
しむ雰囲気が出ていたのが印象的だっ
たと見に来てくれた数組の友人らからコ
メントを頂いた。

次の日はちよつとした観光も出来たの
でメンバーも満足して帰途についた。観
光立県沖縄県民として私が県外のフラメ
ンコ仲間と言う宣伝文句は「沖縄に遊び
に来てね、ついでにライブもやろう！」
である。日本のアンダルシア的な沖縄で、
来年も、そのまた次も、アジアの中心
な存在となってフラメンコを楽しめる場
所になれたらと思う。



フラメンコライブ@沖縄を終えて

島袋紀子

「のりこさん、沖縄でライブやりましょ
う！」

今年の春セビリアでそろそろ帰国の心
構えを始めたころ、同じ沖縄県民の若き
ギタリスト、ケンタのひと声からそれは
始まった。

スペインに来る前までは、私の周りに
いるフラメンコ関連の人たちは同年代
か、年上の人が多かった。アンダルシア
州に位置するセビリアはフラメンコの
メッカと言われるだけあって、プロを目
指す人、趣味でレッスンを受ける人、観
光がてら体験レッスンを受ける人など、
老若男女のフラメンコファンシオナード
（愛好家）がスペイン国内外から集まっ
ている。

現地ではフラメンコ好きで有名な日本
人も年齢様々な人たちに出会ったが、特
に10代や20代前半の若い子たちに出会
たことがとても刺激になった。同じフラ
メンコ好きと言えど、世代が違うので影
響されたアーティストや音楽に対するの
捉え方がやはり私の世代とはちよつと違
うように感じたが、それがフラメンコが
生きている芸術だと言われる所以なのだ



ろう。若者特有のまっすぐでひたむきな
姿勢が私にとってはとても新鮮だった。

沖縄県内ではまだまだ気軽にフラメン
コに触れる機会が少ないので、この若い
世代のフラメンコを沖縄の仲間にも見て
もらい、沖縄にも新しい風が入ってきた
らみんなにとっても良い刺激になるので
はと思っていた。

それが帰国後すぐ実現するなんて。。
歌、ギター、踊りの三位一体と言われ
るフラメンコ舞踊の構成は大まかな決ま
りごとがあり、ジャズセッションのよう

に即興でも演奏者と合わせることができ
るようになっていく。もちろん、時間が
あるなら事前に合わせるに越したことは
ないが、その場の雰囲気それぞれの持
つ「何か」が現れて化学反応を起こし、

クラシックギターが辿った歴史

ブリングスリー ノエル

今回はクラシックギターが辿った歴史に少々触れてみます。16世紀ごろにスペインでビウエラという楽器でスペインに入ってきました。当初は復弦で（一つの音の弦が2、3本あること）4コース、5コースと定まっています。その当時の作曲家ではミラン、ナルバエス、ムダーラなどがいます。

18世紀末から19世紀当初はギターにとって黄金時代と言われています。たくさんの偉大な作曲家、演奏家、教育者が生まれ、ギタリスト以外の作曲家（シューベルト、ロッシニ二等）も自身の作品にギターを取り入れています。この頃から現在のギターの基礎の原型が出現してきます（6本の弦、丸いサウンドホール）。この頃の代表的な制作家はイギリスのラコート、フランスのパノルモです。形的に言えば、似ていますが結構



小ぶりです。

19世紀後半に入り、スペインのギタリスト、作曲家、アントニオ・デ・トーレス（1817-1885）によって現在のギターが作られました。アルハンブラ宮殿の思い出などの多くの名曲を書いたフランシスコ・タレガがこのギターを愛用したことによってギター音楽が再び脚光を浴び、アンドレス・セゴビアやナルシソ・イエペスなどのギターの巨匠によって世界的に広まりました。

のちにセゴビアが愛用したハウザーギターはギターの完成されたモデルとして

その後の制作家に大きな影響を与えたとされています。しかしギターはまだ発展途上にあり、弱点であるギターの音量を克服すべく新しい構造が発明され、100年前と今では比べようのないほどの音量の差があることも事実です。

現代的な構造のギター スモールマン

時に繊細な音を出し、硬い音から柔らかい音まで出せるギターは時には小さなオーケストラとも言われることがあり、20世紀頃から巨匠たちの演奏によって多くの作曲家が挙げてギターの為に作品を書き始めます。巨匠たち一人一人を挙げていくとときりがありますが、スペインのアンドレス・セゴビア、イギリスのジュリアン・ブリームがその代表と言えるでしょう。

スペインのギタリスト アンドレス・セゴビア

セゴビアはあまり現代的な音楽を好まず、ストラヴィンスキーなどの超大御所から曲を捧げられたときには『私はあなたの音楽を好みません、なので弾くことは

ありません』的なことを言ったみたいです。しかし同じ現代の作曲家でも聴きやすい作品を書く作曲家の作品は大きく取り上げ、その霊的とまで言われた演奏でたくさんの聴衆を魅了したと言われています。

イギリスのギタリスト ジュリアン・ブリーム

その反対にブリームは積極的に現代音楽を取り上げ、自身が出す多彩な音色で作曲家の描いた世界観を音で創り上げたと言われています。日本を代表する作曲家の武満徹もブリームに音楽を捧げた作曲家の一人です。ブリームの演奏は独特で、一曲を仕上げるまでに6カ月以上かかる時もあり、本人のその音楽に対する思い入れがそれだけでわかると言えます。ブリームは時にすぐステージで緊張し、アマチュアでも簡単にわかるミスを連発することがあったようです。しかしそれまでがどれだけ酷い演奏であっても、ステージの最後に必ず神が降臨するような感動を与える演奏をしていたとも言われています。

きょうもあしたも トルティージャ エスパニョーラ (スペインオムレツ)



●用意するもの
フライパン（このレシピでは直径18センチ）
トルティージャを返すお皿
油を濾すザルとボール
じゃが芋（メイクイーン）…大きめだったら4-5個
卵…5個
玉ねぎ…半分みじん切り
お好みでニンニク少々
塩…適宜



スペイン人の国民食とも言える Tortilla Española（スペインオムレツ）。

以前、沖縄スペイン協会の発足イベントでレシピなどをお話ししましたが、紙面でもう少し詳しく（しつこく）説明させていただこうと思います。

私がスペインバルを開店してから15年あまり。いったいどのくらいの数のトルティージャを作ったでしょうか…

家庭でもバルでもスペイン人の大好きな料理のひとつ。私もこの素朴で飽きのこない味が大好き。

例えばスペイン国内を長距離バスで旅行するとき、硬いバゲットに大きくカットされたトルティージャを挟んだボカディージョ（サンドイッチ）を一本持って乗り込みます。バゲットにトルティージャだけ。バターもマヨネーズもレタスも何も加えません。のんびりバスに揺られながら時々ボカディージョをひとくち齧って…時間が経つごとにバゲットの白い部分にトルティージャの油がしみ込んでじゅわっと美味しさが増します。

また北部ガリシア地方アコルニャから路線バスで30分ほどのベタンソスという小さな街はトルティージャが有名。その地域のトルティージャはスペインでは珍しく卵がとろとろ。私自身もベタンソスほどではないにしても、中はやや柔らかめに火を入れるのが好きです。

基本はじゃが芋ですが、例えばほうれん草のトルティージャやガリシアで食べたじゃが芋と干しダラのトルティージャ、パプリカやピーマン生ハムなどを加えた田舎風…などのバリエーションはありますが大切なのは素材の味。味付けは塩のみです。アリオリソース（にんにく風味のマヨネーズソース）をつけても美味しいです。卵料理のレパートリーのひとつとして Tortilla Española（スペインオムレツ）、ぜひどうぞ。

¡Vamos a cocinar!



①フライパンに半分くらいのオイルを入れてそこにナイフでジャガイモを切りながらいれていきます。

②玉ねぎとニンニクを入れて焦げないように中火より弱い火で、全てが柔らかくなるまでオイルで煮ます。

③オイルをザルで切ったら、ボールに溶いておいた卵の中に入れます。塩を入れてかき混ぜてフライパンにもどします。



④焼き面ができたなら、お皿をフライパンに乗せてフライパンをひっくり返します。そして焼けてない方からフライパンに滑らせてもどします。ここがちょっと難しいところですが、あわてずに。

⑤卵の焼けるいい香りがしたら火を止めて、まん丸なトルティージャの出来上がりです。

Cocina Española

スペインバル ラストレスラマス
内山三枝

Cuadernos de Historia. 歴史のノート

Capítulo 1. Atapuerca y Altamira. (Prehistoria) (先史時代)

ギジェルモ・アラムビューロ Guillermo Aramburo

Hola a todos! Me llamo Guillermo Aramburo, y hace 6 años que vivo en Okinawa. Aunque soy educador social, en Okinawa trabajo de diferentes cosas, sobre todo como profesor de español. Este año me he hecho socio de la SEO y me gustaría colaborar en esta revista haciendo, en cada número, una pequeña referencia a la historia de España y presentaros algunos lugares por si estáis pensando viajar a España. Espero recibir muchos comentarios y que toda esta información sea muy útil. Muchas gracias por esta oportunidad. Empezamos!

皆さん、こんにちは！私はギジェルモ・アラムビューロです。6年前から沖縄に住んでいます。私はソーシャルワーカーですが、沖縄ではスペイン語教師として、色々な仕事をしています。今年、SEOの会員になったので、この会報で、スペインの歴史とスペインに旅行するときのために幾つかの場所を少しずつ紹介していきたいと思っています。この情報がとても役に立つように、そして皆さん az からの沢山のコメントを待っています。このチャンスに感謝します。では、始めましょう。

Para empezar por el principio es necesario aclarar que la zona de la actual Portugal y España fue nombrada por los griegos "Iberia" (los romanos la llamarán "Hispania" más tarde) y en la actualidad a toda esta zona le llamamos la Península Ibérica (de ahí el jamón ibérico). Está península esta situada en el extremo sudoeste de Europa, separada de Francia por la cordillera de los Pirineos y rodeada por el mar Mediterráneo y el océano Atlántico. Al sur, la costa de Marruecos está tan solo a 14 Km. formando el estrecho de Gibraltar.



まず、最初に、現在のポルトガルとスペインを、ギリシア人は「イベリア」と呼んでいました。(ローマ人が「イスパニア」と呼んだのは、もっと後の事です) この半島はヨーロッパの南に位置し、ピレネー山脈によってフランスから分断され、地中海と大西洋に囲まれています。半島と、南のモロッコの海岸までの間のジブラルタル海峡の幅は、たった 14 キロメートルしかありません。

¿Quiénes fueron los primeros pobladores? Es realmente una pregunta difícil de responder, pero si algún día haces el camino de Santiago, muy cerca de la ciudad de Burgos, pasarás por la sierra de Atapuerca. Debes pararte ahí, pues estás en uno de los yacimientos arqueológicos más importantes de Europa.

誰が最初の入植者でしょうか？その答えは本当に難しいですが、ブルゴスの街の近くのサンティアゴ巡礼に行くときには、アタプエルカ山脈を通るでしょう。そこはヨーロッパの最も重要な脈の遺跡があって、あなたはそこに宿泊するとよいでしょう。

La sierra de Atapuerca es un conjunto de cuevas declaradas Patrimonio de la Humanidad por contener huesos humanos de hasta 1.200.000 años de antigüedad, los más antiguos de Europa. Desde su descubrimiento en 1895, cada año se va excavando más profundamente y nuevas piezas aparecen. Cuanto más profundo, más atrás en el tiempo vamos.

アタプエルカ山脈はヨーロッパでもっとも古い、古代 120 万年の人骨がある洞穴群の存在によって世界遺産に登録されました。1895 年の発見後、毎年洞穴を掘り下げて、新しく洞穴が見つかっています。深く掘るほど、より古い時代へと遡っていきます。

No sólo la antigüedad de los huesos hace de este, un lugar único, sino también la cantidad de huesos que se encuentran. En Atapuerca se han encontrado fósiles de hasta 4 tipos diferentes de homínidos (homo sp, antecesor, heidelbergensis y sapiens) sin contar los innumerables huesos de animales. Cada hueso es una pieza más en el puzzle de la historia de la Humanidad.

この洞窟は、その古さだけでなく、人骨の量が多いことでも評価されています。アタプエルカは、ヒト科の 4 つの異なる化石も見つかっています。



す (ホモ・サピエンス、アンテセッサー、ハイデルベルゲンシスとサピエンス)。これには、動物の骨は数に入っていない。それぞれの骨は人類の歴史のパズルのピースの 1 つなのです。

También se han recuperado más de 5.000 restos óseos del Homo Heilderbergensis. Todo un grupo de niños, adultos, hombres, mujeres y ancianos se encuentran enterrados ahí. Cada año, nuevos descubrimientos aportan más información sobre la forma de vida de los primeros Europeos que salieron de África en las diferentes migraciones.

また、ホモ・ハイデルベルゲンシスの骨も 5000 以上修復されました。子供、大人、男、女、年寄りのグループがすべてここに埋められているのが見つけられました。毎年の発見は、ヨーロッパでの最初の生活の形について、より多くの情報をもたらしてくれます。その生活はアフリカからの様々な移動によるものでした。

Un poco más al norte, en Cantabria, a 2 Km. del bellissimo pueblo de Santillana del Mar, se encuentra la cueva de Altamira. Se trata de la mejor representación de pintura rupestre del país. Declarada patrimonio de la Humanidad en 1985, ha sido considerada "La Capilla Sixtina de arte rupestre". Se calcula que las pinturas fueron

realizadas por el Homo Sapiens entre hace 35.000 y 13.000 años. En las paredes y el techo se pueden ver búfalos, ciervos y otros animales en diferentes posturas

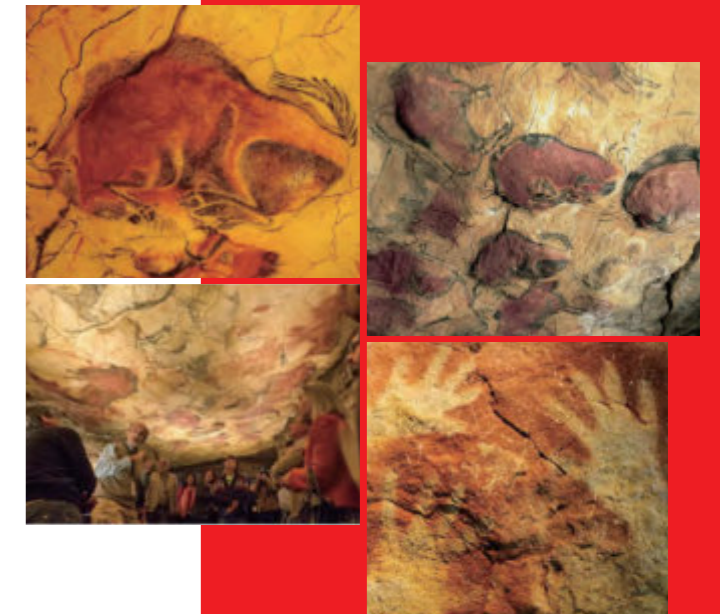
カンタブリアのとても美しい村サンティジャーナ・デル・マールの 2 キロ少し北では、アルタミーラの洞窟が発見されています。国の壁画の最も良い表現です。1985 年人類遺産に登録され、「壁画芸術のシステーナ教会」と考えられています。35,000 から 13000 年までのホモ・サピエンスによって描かれたと計算されています。壁や天井にはバッファローや鹿やその他の動物の色々な姿を見ることができます。

Es difícil explicar la sensación que tienes al ver estas pinturas. Tan antiguas, tan sencillas y tan hermosas. Al observarlas es como si miraras un parte de ti mismo.

"Ninguno de nosotros es capaz de pintar así" Pablo Picasso.

これらの絵を見るときに気持ちを表現するのは難しいです。とても、古く、とても単純で、とても美しい。これを見ることは、あなた自身を見るようです。

「私たちの誰一人として、このように描くことはできない」パブロ・ピカソ



もっと、知りたい方は Para más información:

•https://www.nationalgeographic.com.es/historia/grandes-reportajes/atapuerca-la-cunade-los-humanos-mas-antiguos-de-europa_7021/1

•<https://www.nature.com/articles/nature06815>

•<https://www.youtube.com/watch?v=-3ggUu6mDnk>

•<https://www.youtube.com/watch?v=kWOzVdWf15U>

(訳：上原由記音)